

一溪の風

県立神奈川工業高校100周年

登山家の泉田清幸(建築52)

は、2003年のエベレスト登頂時に「KTAC」と書いた旗を広げた。神工山岳部の英語表記の頭文字だ。「神工山岳部を代表して登ったつもりだからです」

1年生の夏休み、山岳部OBが群馬県の万座に山小屋を建設する際に駆り出されたのが、神工最大の思い出という。「15日間泊まり込み、砂利やセメント、砂を毎日30往復荷上げしました」

建築科で学んだ技術を生かし、22歳のとき「大工」になる。腕一本で工務店を渡り歩き、資

登山

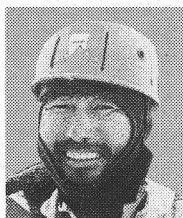
⑤

金をためては海外に出かけた。いったんは登山から遠ざかったが、山小屋維持のため山岳部OBとの交流は継続。30代半ば、OB同士で酒を飲んだ翌朝、皆で丹沢に登ったのを機に登山を再開する。

海外ではモンブラン、マッターホルン、キリマンジャロなど「1人で登れて、富士山より高い山」に次々挑戦。「延長線上にエベレストがあった」



泉田 清幸
さん



長谷川恒男
さん

山岳部では部の運営も山行も生徒の自主性に任されていた。「自分の頭で考え行動し、すべての結果に責任を持つことを学んだ。自分の気持ちに忠実に生きてきたという点では、神工の校風『質実剛健』から、そう外れてはいないと思う」。山小屋は健在で、2013年に建設50周年を迎える。

◇

山岳部ではないが長谷川恒男(定時制機械54、故人)も卒業生だ。1970年代にマッターホルン、アイガー、グランドジョラスのアルプス三大北壁の冬季単独登攀を世界で初めて成し遂げ、81年に南米・アコンカゲア南壁を冬季単独初登攀。世界的クライマーとして知られた。

著書「北壁からのメッセージ」(1984年、民衆社)で、彼

は高校について語っている。中学を卒業し就職した長谷川は、将来に不安を感じるようになった。そんな頃丹沢に初登山した。「頂上へ辿りついたときの、満足感と解放感は、いままでに体験したことのない、さすがらしいもの」(同書)で、不意に「高校へ行こう」と思い立った。

神工で身についた「考え方の基本」が二つある——とも言及する。「かなめになるもの」は正確にやらなければならないということ、そして「大事なのは応用の訓練であるということだ。「本質的な部分で勉強できたことに、感謝している」と記している。

卒業から23年後、パキスタンのウルタルII峰で遭難死。東京都山岳連盟は主催する山岳耐久レースの優勝者に「長谷川恒男CUP」を贈っており、同レースは通称「ハセツネカップ」として親しまれている。

●敬称略、()内は専攻科と通算卒業期

世界の山岳に挑んで